

## 東京都葛飾区 公費にて「漢検」を実施 小学6年生全員が対象

葛飾区の小学生約5,000人が「漢検」合格  
子どもの努力に目を向け 自尊感情を高める 区の一環

公益財団法人 日本漢字能力検定協会(本部:京都市下京区/代表理事理事長:久保浩史)が主催する「日本漢字能力検定(以下、漢検)」(団体受検)において、平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)の1年間で、東京都葛飾区の区立小学校の小学生のべ6,580人が受検し、のべ4,988人が合格しました。

葛飾区教育委員会(塩澤雄一教育長)では、子どもたちに目標をもって努力し達成することを通じて自尊感情を高めようという想いで、葛飾区内公立小学校の小学6年生全員を対象に、漢検か実用数学技能検定のいずれかを、年に1回公費にて実施しています。また小学6年生の公費での受検とは別に、学年を問わず希望する児童は私費でも受検をしています。

葛飾区のような、教育目的を達成するために漢検を活用した自治体の取り組みは、現在全国67の自治体でおこなわれており、今後も全国各地への拡大が見込まれます。学習意欲の向上、基礎学力の定着、自己肯定感の醸成はもちろん、グローバル社会を生き抜くために求められる「21世紀型スキル」である「思考力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」の土台となる日本語の能力育成の方法としても、期待が寄せられています。



『頑張ればできる! 君たちは無限の可能性を持っている』

現在葛飾区では、子どもたちに「やればできる」という自信をもたせたいという想いで、様々な取り組みをしています。漢検の受検もその一つです。漢検は、子どもたちが自分のレベルにあわせて受検級を選ぶことができます。漢字の力は努力すれば身につくやすく、これを積み重ねていくことで、子どもたちに自信をつけてもらいたいと考えています。

葛飾区教育委員会 教育長 塩澤 雄一 氏

略歴:昭和24年生まれ、東京学芸大学卒。小学校教諭、教頭、校長を経て、平成10年葛飾区教育委員会指導室長、平成13年東京都教育庁人事部管理主事、平成17年台東区立台東育英小学校長、平成22年目白大学教授。平成24年に葛飾区教育長に就任。

(参考) 東日本で漢検の検定料を補助している自治体(2015年6月 弊協会調査)

北海道大樹町、北海道豊富町、北海道浜頓別町、北海道新得町、北海道日高町、北海道新冠町、北海道礼文町、北海道芦別市、北海道雄武町、北海道えりも町、北海道寿都町、北海道島牧村、北海道安平町、北海道池田町、北海道広尾町、北海道美瑛町、北海道福島町、北海道栗山町、青森県六ヶ所村、秋田県上小阿仁村、福島県小野町、福島県本宮市、群馬県太田市、埼玉県吉見町、千葉県長南町、東京都葛飾区、東京都港区、東京都瑞穂町、東京都武蔵村山市、東京都日の出町、東京都檜原村、東京都奥多摩町、山梨県小菅村、山梨県都留市、新潟県糸魚川市(順不同)

### 《本件に関する報道関係の方々のお問い合わせ先》

日本語・漢字を学ぶ楽しさを提供し、豊かな社会の実現に貢献します。

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 <http://www.kanken.or.jp/>

PR担当: 時田(普及部 普及企画チーム)

TEL: 03-6385-8740 (固定) 090-2109-9089 (携帯) MAIL: [n-tokita@kanken.or.jp](mailto:n-tokita@kanken.or.jp) (PC)

《葛飾区基本情報》

首長：青木克徳 区長

総面積：34.80 平方キロメートル

位置：東経139度50分から55分、北緯35度41分から48分

世帯数：216,388世帯

人口：448,680人（男性：224,574人、女性：224,106人）

人口密度：12,878.3（人/平方キロメートル）

区立小学校数：50校（保田しおさい学校を含む）

区立小学校の児童数：20,134人

《葛飾区教育委員会の取り組み》

葛飾区教育委員会は2003年11月に「葛飾区教育振興ビジョン」を策定し、その中で「確かな学力の定着」のひとつの施策として、漢字検定など検定への取り組みを明記しました。2014年度からは、検定試験に挑戦することによる学習意欲の向上、基礎学習の定着、自尊感情の醸成を図るため、葛飾区立の小学校に通う小学6年生の児童に対し、漢字検定と数学検定のいずれか1回分の検定料を葛飾区にて助成しています。

《葛飾区教育長インタビュー》

『頑張ればできる！君たちは無限の可能性を持っている』

葛飾区で行う子ども区議会でのことでした。数人の子どもたちが「ぼくたち学力の低い葛飾の子どもたちは」と質問をはじめたのです。私はこれに非常にショックを受けました。葛飾区の学力はそれほど低いわけではありません。しかし子どもたちは「ぼくたちはだめなんだ」と最初から思っている。そこをなんとかしたいというのが、現在葛飾区で行っている取り組みのきっかけです。

葛飾区では、スポーツや研究、作文などさまざまな分野で子どもたちの表彰の機会をつくり、自尊感情、自己肯定感を高める取り組みをしています。漢検の受検の取り組みも、これらの取り組みの一環です。

学校のテストでは、みんな一斉に同じものを学習し得点がつきます。しかし、そこでうまくできない子どもたちはどうしたら達成感をもつでしょうか。漢検をはじめとする検定は、自分のレベルにあわせた級を学習し、努力すれば合格・達成できるものです。目標を持ち努力をし、達成感を得る経験を積み重ねていくことで、子どもたちに自信がつくのではないかと考えました。

もうひとつ重要なのは、学力上位層の子どもたちへの対応です。低学力の子どもたちに基礎学力をつけるというのは、全国的な課題ですが、葛飾区では学力上位層の子どもたちもどんどん伸ばしていきたいと考えています。みんなに対して一斉に行う授業での学習では、もっと高みを目指したい子への対応がなかなか難しいのが現状です。もっと伸びたいという子どもたちをもっと伸ばしてやりたい。小学1年生から高校生、社会人レベルまで、幅広い級のある漢検はそういった子どもたちへの対応としても有効です。

私は、勉強とは本来自発的に行うものであり、子ども自身が勉強をやる気にやらなければ学力はついてこないと思っています。やる気の始まりは、自分自身が目標をもつことだと考えています。漢検の受検も、そのきっかけのひとつになっています。

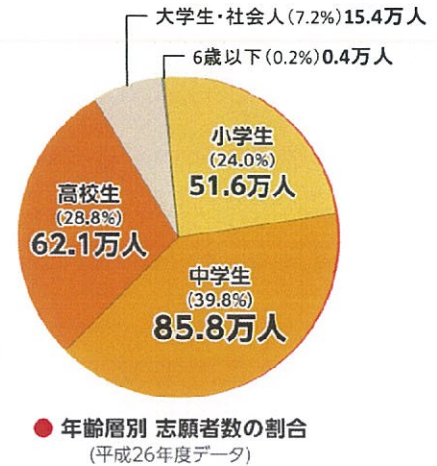
また、葛飾区の学校現場では、漢検合格を目指せ、というだけでなく、そのためにいつまでになにをやるかという計画を子どもたちに立てさせています。これが、自分で勉強するという学習習慣や家庭学習につながっています。目先のテストの結果だけではなく、子どもたちの将来にわたって、自分で目標を持ちどうやってそれを達成するかという計画を立てる習慣を身につけておくことは重要です。そういう訓練としても漢検の受検は効果的だと思います。

(2015.07.17 於 葛飾区役所)



《日本漢字能力検定(漢検)について》

日本漢字能力検定は、公益財団法人 日本漢字能力検定協会が主催する漢字能力を測定する技能検定です。平成26年度の年間志願者数は約215万人で、国内では最大規模の検定のひとつです。1級から10級まで12段階に分かれており、実力に合わせた受検が可能です。3歳から102歳までと幅広い年齢層の方が受検しています。全国の高校の2校に1校、大学・短期大学の3校に1校が入試の際に漢検を活用しており、受検者の9割以上は小中高生です。グローバル社会を生き抜くために求められる「21世紀型スキル」である「思考力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」の土台となる日本語の能力を証明する資格として評価されているのはもちろん、自治体や学校現場では、自己肯定感の醸成、基礎学力の定着、学習意欲の向上を図る取り組みとして活用されています。



《文章読解・作成能力検定(文章検)について》

文章読解・作成能力検定は、文章読解力および文章作成力をどの程度身につけているかを客観的に測り、2級から4級までの級別の認定を行う技能検定です。平成25年10月に開始し、今年10月に3年目を迎える検定で、企業や学校、塾などの団体受検の申し込みを受け付けています。全国の大学・短期大学の4校に1校が入試で文章検を資格として評価・活用しており、社会生活に必要なコミュニケーション能力の基礎となる文章能力の育成に効果的な検定として期待を寄せられています。